

第3回リニア駅周辺整備基本構想検討会議の概要について

1 開催日

平成27年1月20日(火)

2 出された意見の概要

<基本方針1>

- 駐車場規模の検討に当たっては、車を運転するどの年齢層がどのくらい減るのかということを経済的に再考する必要がある。
- 駐車場を別の使い方と併用することも考え、事例を研究してはどうか。
- 駐車場は多層化を図るとともに、その場合の屋上の使い方は検討をして欲しい。
- 駅を降りた時の情報を分かりやすくすること。また、駅前広場やP & R駐車場の造り方（隠し方）は工夫が必要。
- 強力なセールスポイントが無いから、思い切ったハード面での開発が必要。開発に当たっては、大手民間企業への打診を求める。
- 駅周辺整備に当たっては、移転先等も同時に考えていかないといけない。市としての対策をお願いしたい。

<基本方針2>

- JR飯田線乗換新駅の設置に当たっては多くの課題がある。例えば、乗換新駅とリニア駅との距離があるため、利便性も良くないのではないか。
JR飯田線への乗換機能は、リニア駅の利便性向上のためにも必要である。設置する場合
- も、大規模な駅ではなく、乗降できる程度の駅という規模であれば、特段大きなものにならないのではないか。
乗換新駅について、超高速のリニア新幹線から秘境駅も多いローカル鉄道に乗り換えるとい
- うのは、観光資源の観点からも有効である。コストを抑えた形で、乗換を主目的とした駅とすることが望ましい。
- 乗換新駅については、よりリニア駅に近接する形での接続を検討できないか。

<基本方針3>

- 都会にない田舎の素晴らしさを駅に降りた時点で感じられる駅前、地域産材を使いながら南信州にふさわしい施設を造るという方向性は賛同できる。
リニアのあかり区間について、防音壁区間が住宅地域までかかる部分があるため、騒音を危
- 惧する声が多い。そのため、リニア自体を眺望するという点については、配慮して取り扱って欲しい。
- 駅前広場の眺望については、現風景を残した最低限の開発をしていただきたい。
- 見晴らし広場に関しては、駐車場屋上に限定する話ではないので、もう少し幅広い意味の表現が望ましい。

<基本方針4>

- インバウンドに関しては、利用者に関する動向等を意識し確認していく必要がある。
- 外国人が日本に来て運転をすることは基本的にストレスであり、受け入れ側も同様であることなどを考えると、今後、車利用以外の手段について検討する必要がある。
- 外国人に対するインバウンドの視点や、広域観光に関する視点などの要素をもう少し明確に記載して欲しい。
- 伊那谷の「食」についてももう少し色濃く出して欲しい。特に伊那谷には様々な食の文化があるので必要ではないか。また、地域の特色ある草木の植栽に関する記載を求める。
- コンベンション施設に関する記述を入れて欲しい。
- 広域的に検討が必要な部分があるため、配慮が必要となる。